

歴史は未来の羅針盤

温故知新

これまで刊行しました、『近江日野の歴史』第一巻「自然・古代編」、第二巻「中世編」、第五巻「文化財編」、第六巻「民俗編」は、教育委員会や各公民館において、一冊四、〇〇〇円で好評販売中です。ぜひともお買い求めください。

『近江日野の歴史』第五回配本の第八巻「史料編」は、一二月刊行予定です。今回は、その主な内容についてご紹介します。

史料編のあらまし

日野町内の各大字・区・町の会議所や旧家などには、膨大な数の史料（古文書・古記録類）が残されています。町史編さん室では、町民の皆さんのご協力を得て、約十二万点分の史料調査を実施しました。

今回刊行の「史料編」では、これら膨大な史料の中から、特徴的な史料を厳選し、大判の写真を掲げ、豊富な注・解説を交えて、わかりやすく紹介します。

史料を通じて、古代から現代に至るまでの日野の歴史を学んでいただけるだけでなく、古文書学習用のテキストとしても活用いただけます。

以下では、編ごとに、その概要をご紹介します。

各編の主な内容

第一編「古代・中世編」では、奈良時代から戦国時代にかけての史料を紹介します。鬼室集斯に代表される渡来人の活動を示す史料や、平安時代の荘園に関する史料、蒲生家の動向を示す史料、馬見岡

綿向神社・比都佐神社の神社関係史料、日野牧五ヶ寺の中核寺院であった興敬寺に関する史料などを取り上げ、さまざまな角度から地域社会の様相を明らかにします。

第二編「近世編」では、江戸時代の史料を、第一章「日野の領主たち」、第二章「村・町の諸相」、第三章「産業と交通」、第四章「文化の成熟と社会の変容」の四つの章に分けて、テーマ別に紹介します。江戸時代の地域行政は、現在の大字にあたる村や町が担って

ました。そのため、町内の各大字

には、年貢や訴訟・戸籍など、江戸時代の地域行政運営に関する史料が数多く残されています。これら大字に伝えられた史料を中心に、旧庄屋・日野商人宅に残された史料なども交えて、江戸時代の人びとの暮らしの営みを生き生きと描きます。

第三編「近現代編」では、明治から平成の時代にかけての史料を、第一章「近代の幕開け」、第二章「明治中後期・大正期の日野」、第三章「昭和前期の日野」、第四章「日野町の発展」の四つの章に分けて、年代別に紹介します。「近世編」と

同じく、大字や個人宅に残された史料はもとより、旧町村役場や滋賀県庁といった官公庁や、学校に伝えられた史料を用いて、日野の激動の近現代史をたどります。

充実の付録CD-ROM

「史料編」付録CD-ROMでは、本文に収録することができなかった重要史料約八〇〇点分の活字情報や写真を収録し、さらに深く日野の歴史を知りたいという方々のご要望にお応えしています。

予約と販売のご案内

「史料編」の販売価格は四、〇〇〇円（税込み）ですが、一〇月末日までにご予約いただきますと、三、八〇〇円の割引価格にて販売いたします。また、最終巻が無料となる全巻セット購入の受付もうけたまわっております。詳しくは、まもなく配布しますリーフレットをご覧ください。



▲大谷の日野商人宅に伝わった古文書